

ふるさと探訪

第69回 八堂山遺跡



石鎚山系に源を発する加茂川が、山間の急流から穏やかな大河となつて間もなく、流れの方向を直角に遮っているのが八堂山です。眼下に道前平野や瀬戸内海を一望できるその山頂に「八堂山遺跡」があることをご存知ですか。



修復された竪穴式住居（上）と円形倉庫

昭和46年、八堂山遊歩道の建設工事に伴う発掘調査が行われた際に、山頂とその付近から住居跡や円形状の特殊遺構・弥生式土器などが、多数発見されました。これらは、今からおおよそ2千年前の高地性弥生集落の跡ではないかと考えられています。

その後、当時では県内初の試みとして竪穴式住居と円形倉庫を復元し、昭和49年に八堂山遺跡は市指定史跡となりました。昨年には、長年の風雨によって傷みの激しくなった復元建物の、2度目となる全面修復も行っています。

八堂山遺跡は近接する考古



八堂山と中腹に見える考古歴史館

歴史館と合わせて生涯学習や憩いの場、散策コースとしても親しまれています。

これからの季節、市民の森を含めた八堂山全体は、梅や桜・ツツジの花などで彩られ、例年のように多くの人でにぎわうことでしょう。

